



7月21日は、第25回参議院選挙の投票日である。安倍政権に対して、国民の意思を示す機会である。この間の安倍政権において実質賃金は目減りしている中、10月には消費税が10%に引き上げられ、さらに賃金所得が低下することや言うまでもない。また、年金をはじめとした社会保障制度への不安に追い打ちをかけるように「老後の生活には2000万円が必要」と示され、働く者の生活は先行き不透明である。

そのような中、2018年度の日本国内における人口減少は、出生数が死亡数を下回る「自然減」は44万8千人と過去最高の減少幅となり、10年連続である。人口減少社会の到来に伴い国内の鉄道利用者が減少することは間違いない。一方で、AI・IoTという産業構造の変化も進んでいく。

そこに危機感を持ち、JR東日本はグループ経営ビジョン「変革2027」の構想と実現をめざしている。現在の鉄道サービス事業と生活サービス事業及びIT・Suica事業比率7対3の収支構造を6対4に転換を図り、会社が将来にわたって成長し続けるために社員への自主的な意識変革を促している。

私たち労働組合も、大きな転換点に立っている。「変革2027」を踏まえた新たなジョブローテーションの実施などの各種施策によって「私たちの働き方」も大きく変わろうとしている。従来の延長線上で物事を考え、守る側で発想するのではなく、「雇用と安全を確保し、さらに労働条件の向上をめざす施策」につくり上げていくために、積極的に議論をつくり出していかなくてはならない。

大きな流れの中で変化を受け入れずに、反対だけを声高に叫んでも何も現実には変わらない。国鉄改革当時の国労は、原則的に反対を叫んでいるだけで、施策に対して何ら具体策も示さないばかりか、組合員を置き去りにして雇用の危機まで迫られ解雇者までも生みだした。組合指導部の責任は極めて重大であることを学んだ。だからJR東労組は、会社の

将来ビジョンを描くために 仲間と共に議論して行動しよう!

進めようとしている施策に向き合い、職場から「安全・健康・働きがい」を柱に徹底的に議論を深め、私たちの要求を団体交渉で反映させた施策としてつくり上げてきた。これまで30年以上にわたり、様々な施策に向き合い取り組んできたが、組合員を誰一人として頭にも迷わすことなく、労働条件の向上をJR東労組運動として実現してきた。施策に立ち向かうには労働組合である「JR東労組」が必要であり、強固な団結力が必要である。私たちはこの一年間でつくり上げた「組織力」を通して会社施策にしっかりと向き合い、団体交渉等で要求の実現をめざしていく。

第38回定期大会で確認したスローガンのもと、職場活動を基礎にして新生JR東労組を強化していくことが課題である。組合員の声に基づいて議論を深め、職場から施策など身近な業務課題の検証運動を通して問題点を解決していく。

そして、18春闘「大敗北」の総括議論を深め、組織の信頼回復及び不安を解消する事から再加入が実現できている。

私たちの日頃からの職場活動と世話役活動で人間関係を大切にし、交流を深めJR東労組運動を理解してくれる仲間をつくり出したことで組織拡大に繋がってきた。今後、これまでの教訓的なたたかいの共有化を図り、新規採用者及び未加入者の組合加入の取り組みも強化しよう。

組織的な危機感を共有し多くの組合員の結集をめざして、分会大会の開催を実現させていこう。そして、一人ひとりの離脱した経緯や理由を把握し、温もりのある人間関係を大切に「一歩前」に出、再加入のために「戻ってこい」と勇気と自信を持って実践し組織拡大に繋げていく。今年を勝負の1年と位置付け、難しい課題はあるが切り拓いていかなければならない道である。一年間積み重ねてきた教訓を最大限活かして、JR東労組の必要性や意義を今まで以上に踏み込んで語り合おう。そのことをみんなで躊躇しないで実践し、新たなJR東労組をつくり上げていこう。そして、仲間と共に働

きがいのある職場とするため、将来に向けたビジョンを描いていこう。

組合員の声を大切に 新生JR東労組運動をバス職場から つくり出そう!

また、「この先のバス東北の将来を見据えた時に、次世代を担う若手を育成しなければならぬ」「慢性的な要員不足の解決に向け職場のたたかいを強化していく」「不当労働行為に対しては法的になく立ち向かっていく」など

ジェイアールバス東北本部は、7月12日に仙台地本会議室において、第32回定期委員会を開催しました。中央本部・加藤書記長をはじめ多くのご来賓を含めて、総勢47名の結集のもと、バス東北本部のこれまでの取り組みを振り返り、新生JR東労組運動をバス職場からつくり出す方針を確立しました。

委員の発言では、JR東労組の厳しい現実における1年間の苦闘、職場からつくり出した運動による成果や課題、職場で行われている脱退・後援や利益誘導といった不当労働行為とも捉えられる事象などについて報告がありました。脱退を余儀なくされた仲間に対し「辞める前に一言相談して欲しかった」「これまで組合員と職場のために頑張ってきたのに」と率直な気持ちも語られました。

バス東北本部は、今定期委員会で新体制となりました。更に組合員一人ひとりの声を大切に、職場活動を基礎に団結を強化し、組合員と家族の幸せのため、JR東労組再生に向け奮闘していきます。(ジェイアールバス東北本部発)

- 2019年度役員体制** ※三役のみ・敬称略
- 議長 佐藤 秀一 (白沢事業所)
 - 副議長 高橋 賢一 (福島支店)
 - 副議長 沼崎 直人 (盛岡支店)
 - 事務長 伊藤 茂典 (七北田事業所)



- 2019年度役員体制** ※三役のみ・敬称略
- 議長 遠山真一郎 (バス東京)
 - 副議長 栗田 和弘 (バス東京)
 - 副議長 小泉 聡 (バス館山)
 - 副議長 大谷 規 彰 (バスセンター)
 - 事務長 東河 (バス水戸)

この一年間の厳しいたたかいにより、分会の到達点と課題や安全問題を訴え、事故を過小評価する企業体質に警鐘を鳴らしました。委員の発言では、厳しい状況の中で、組合員と家族を守る運動をつくり出してきた苦闘、転勤問題について「本人希望を尊重せず、家庭環境を配慮しない転勤は安全問題に直結する」と怒りの発言も出されました。また、未だに解決に至らない55歳以上の社員の基本給減額制度について「今や高齢者の労働力が主流となるバス会社で、具体的な方向性を示すべき」という切実な声もありました。

この一年間の厳しいたたかいにより、分会の到達点と課題や安全問題を訴え、事故を過小評価する企業体質に警鐘を鳴らしました。委員の発言では、厳しい状況の中で、組合員と家族を守る運動をつくり出してきた苦闘、転勤問題について「本人希望を尊重せず、家庭環境を配慮しない転勤は安全問題に直結する」と怒りの発言も出されました。また、未だに解決に至らない55歳以上の社員の基本給減額制度について「今や高齢者の労働力が主流となるバス会社で、具体的な方向性を示すべき」という切実な声もありました。

そして何よりも笑顔を、涙ありの元気で明るいJRバス関東らしい定期委員会をつくり出すことができました。

労働組合の役割を再確認し、賃金制度の諸課題と総合労働条件の改善や不当労働行為の撲滅を通して、安全第一のJRバス関東を再構築することを目指しながら、再加入と新規採用者の加入を実現します。(JRバス関東本部発)

福島市議会議員選挙 6月30日投票
JR東労組推薦候補者

羽田 ふさお氏

当選!

「人にやさしい街をあなたと共に」を スローガンに掲げる羽田氏と共に 地域でJR東労組運動を 推し進めよう!

6月27日、JRバス関東本部第32回定期委員会を中央本部大会議室において委員、傍聴、ご来賓を含めて80名で開催しました。遠山議長の挨拶では、申17号「不当労働行為撲滅を求める申し入れ」に至った経緯と目的について述べられました。また、19春闘

の到達点と課題や安全問題を訴え、事故を過小評価する企業体質に警鐘を鳴らしました。委員の発言では、厳しい状況の中で、組合員と家族を守る運動をつくり出してきた苦闘、転勤問題について「本人希望を尊重せず、家庭環境を配慮しない転勤は安全問題に直結する」と怒りの発言も出されました。また、未だに解決に至らない55歳以上の社員の基本給減額制度について「今や高齢者の労働力が主流となるバス会社で、具体的な方向性を示すべき」という切実な声もありました。

そして何よりも笑顔を、涙ありの元気で明るいJRバス関東らしい定期委員会をつくり出すことができました。

労働組合の役割を再確認し、賃金制度の諸課題と総合労働条件の改善や不当労働行為の撲滅を通して、安全第一のJRバス関東を再構築することを目指しながら、再加入と新規採用者の加入を実現します。(JRバス関東本部発)



**労働組合の役割を再確認し
仲間と共に組織強化・拡大を
実現しよう!**